



発行所 立命館大学新聞社
 発行人 奥野 泰生
 〒603-8577 京都市北区等持院北町
 56-1 立命館大学学生会館 BOX316
 075-465-8253 (内線 2160)
 〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
 立命館大学セントラルアーク 4F
 〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150
 立命館大学 A 棟北ウィング (AN)
 3F Student Lounge 内
 email:info@ritsumeikanunivpress.com

みなさんの輝かしい
 学生生活の
 一助になれば幸いです



www.ritsumeikanunivpress.com

立命館大学新聞社 検索

@Rits_Press

www.facebook.com/ritspress/

新人記者募集中

新入生歓迎号

本号の紙面

BBP 設立5周年 …… 1面
 総長単独インタビュー …… 2面
 サポートサービス特集 …… 3面
 スポーツ展望2023 …… 4面

問いを発見
 サービスラーニングセンター

サービスラーニングセンター(以下、SLC)は学生と地域社会をつなぎ、学生に一人の市民としての立場から社会活動に取り組み機会を提供している。学生は大学内で社会課題に対する理解を深め、その後大学外で実際に課題に触れ、解決に向けた実践活動に取り組むことができる。また地域から寄せられたボランティア情報を紹介しており、窓口では学生の希望に沿って相談に応じてくれる。



SLC 運営に携わる山口教授

実際に取り組んでみる。このようにまず自分と社会のつながりを発見し、問いを立てることは、自身を見つめ直すことにつながり、学生の成長に大きく影響するそう。山口教授は「3キャンパスでそれぞれの地域特性に合わせた学びの場を用意している。ぜひ友達と一緒に訪れてみてほしい」と呼びかけた。

またSLCで学生コーディネーターとして活躍する瀨川真由さん(心理4)は、大阪いばらきキャンパスのSLCに訪れる学生の興味・関心を基に地域団体の取り組みを紹介する相談窓口を昼休みに開催してき



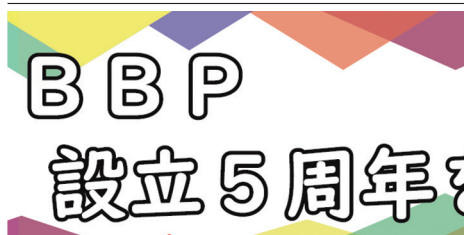
学生コーディネーターの瀨川さん

最後に瀨川さんは自身の経験を踏まえ「やってみたいとわからない。コーディネーターになる前は不安な気持ちや懸念もあったが、勇気を出して活動に参加したことで純粋な楽しさ、新たな世界を発見できた。地域や問題解決への関心・きっかけがあれば、まずは動いてみてほしい」とエールを送った。(西澤、奥野)

PEP Conference 2022
 未来の英語教育を語る

「PEP Conference 2022」が1月28日に開催された。生命科学部・薬学部・スポーツ健康科学部・総合心理学部で実施される、プロジェクト発信型英語プログラム(以下、PEP)が主催し、今回は「AI時代の大学英語教育」をテーマに、2022年度に試験導入した先進なサービスを活用した英語教育の報告がされた。PEP教員のほか、サービス

提供者の株式会社NTTドコモなども報告に加わった。PEPは、本学の中期計画「R2030チャレンジ」にて、2022年5月に優秀賞を受賞。AIやメタバースといった最新技術が大規模導入された。イベント終盤では、参加者からの質問に答えながら、AI時代の大学英語教員の



一部発表はメタバース空間にて行われた

在り方についても触れられた。木村修平准教授(生命科学部・教育学部副部長)は「教員の変化にも注目していきたい」とイベントを締め括った。(小野)

BBP 設立5周年を迎える

2023年度、本学のBeyond Borders Plaza(以下、BBP)は設立5周年を迎える。BBPは国際交流や言語学習を目的とした施設であり、留学相談などのサービスを提供するほか、学生スタッフが主体となってさまざまなイベントを実施している。

BBPチーフコーディネーターの石川涼子准教授は「設立当初からBBPに対する学生の関心は高かった。新型コロナウイルスの影響でオンライン

のイベントが主になった時期もあったが、現在BBPを訪れる学生の数は復調傾向にある」とBBPのこれまでを振り返る。また学生に対して「語学力に自信がなくても、気負わず来てみてほしい」と呼びかけた。2020年度秋学期からBBPの学生スタッフを務める田代優都さん(文4)は、BBPの発展に向けて「BBPは気軽に入れる場所だということをさらに多くの学生に知ってもらいたい。一度来てもらえたら、必ず楽しんでもらえると思う」と語る。また今後の意気込みについては「BBPへ入る最初の一步を踏み出せないという学生は少なくない。5周年を迎える本年度は、より気軽に利用してもらえようという施設づくりを励みたい」と前向きな姿勢を見せた。(竹内)

京都国際学生映画祭開催

2月3日から5日にかけて、京都文化博物館終審査のため登壇した。(京都市中京区)にて京都国際学生映画祭が開催された。本映画祭は、関西圏の大学生が企画・運営を担っており、国内外の学生映画を審査・表彰する。今回で25回目の開催されており、私も作品を審査し、映画監督の犬童一心監督、早川千絵監督が審査員として参加した。

監督、李闘士男監督らが最優秀賞を受賞した。佛光大に所属する実行委員長の近藤豊嗣さんは「本映画祭は、関西圏の大学生が企画・運営を担っており、国内外の学生映画を審査・表彰する。今回で25回目の開催されており、私も作品を審査し、映画監督の犬童一心監督、早川千絵監督が審査員として参加した。学生映画祭を学生が運営することは、社会や人がつながるだけでなく、自分のやりたいことができる絶好の機会だった。この記事を読んでいる皆さんにも、本年度の映画祭にぜひ参加してほしい」と語った。(三好)

私の父はLINE Eでいつも写真や動画だけを送ってくる。この前は、ウインナーを炒めてくる。この前は、アピールなのか何なのか、意味不明でふきだした。それに対して私も意味のない写真だけを送りつける。今ではこんな風に一応やり取りできているが、ここに至るまでには時間がかかった。中学時代、思春期真っ只中の私は亭主閑白な父のすること全てにいらつき、口をきけば大喧嘩。会話にならないため、最終的に話さなくなった。そんな冷戦状態の父と娘に変化が起きたのは大学受験が近づき、塾に通いだした頃である。父の仕事終了と私の帰りが被るようになったため、車で送ってもらおうようになった。助手席に置いてある荷物を勝手にどかして乗り込み、私が一方的にその日の出来事を話した。「なんだよそこ座るのかよ」「よくしゃべるなあ」と文句を言うてくるが、どこか楽しそうなのがバレバレだった。雪解けといったところだろうか、長く続いた戦いはこの頃やっと終わったように思う。

新入生の皆さま 入学おめでとうございます
 これからの皆さまの大学生活が実り豊かなものでありますよう立命館大学新聞社一同お祈り申し上げます

「ワクワクする学園づくりを目指す」

仲谷総長再選 単独インタビュー

春、新生活の時期である。このような施設を利用できることは大学生の特権であり、学生という立場でしかできない挑戦は多い。という学生も多いのではなかろうか。コロナ禍で制限された高校生活を過ごすことになったとしても、このような場があるということを知ることで、自に据えた過ごし方も否定されるものはないだろうか。人生で最も自由な時間ともいわれる大学生活に、新入生の皆さんは踏み出そうとしている。これから始まる生活には多くの経験の場があり、そこで得られるものは知識・教養としての学び、交友関係、自分の身のこなし方などさまざま。こうして経験できるものを選択していく上で、自分が興味のあることをしては自分にとって満足のいく大学生活にならない。大学生が自分にとって有益なものになったか判断できるのは自分だけなのだ。

側面でも課題を残したと語る。2期目就任にあたっては、世界課題の解決に貢献する「次世代研究大学・次世代探究学園」を目指すとする。これには、1期目と表裏をなすもの、世界のレベルの研究で世界の課題解決に貢献していく大学・学園を目指すという思いが一貫しているという。なかでも、1期目在任中に策定した「R2030チャレンジ・デザイン」への取り組みとして、DXの推進・グローバル化・学外連携の強化の3つを挙げ、その基盤は多様な性と語る。特に映像学部(衣笠キャンパス)と情報理工学部(びわこ・くさつキャンパス)の大阪いばらきキャンパスへの移転を「R2030」実現に向けた起爆剤と位置付け、期待を寄せる。また昨今話題のAIについても触れ、新たなツールの活用に向けた前向きな姿勢を示した。

最後に在校生・新入生に向けて「出会いが奇跡だ。



再選を果たした仲谷総長
1月1日付で2期目を迎えた

これを生かして、ワクワクするような体験をしてほしい」と語る。本学は、1学年に国内外から約8000人の入学者が在籍し、そこに校友(卒業生)、教職員らが加わる。「この時代、この場所、人と人が出会うという目の前の奇跡を実感し、ワクワクする環境を生かしてほしい。そのために、我々は全学を挙げてサポートする」とメッセージを送った。(小野、稲垣)

側面でも課題を残したと語る。2期目就任にあたっては、世界課題の解決に貢献する「次世代研究大学・次世代探究学園」を目指すとする。これには、1期目と表裏をなすもの、世界のレベルの研究で世界の課題解決に貢献していく大学・学園を目指すという思いが一貫しているという。なかでも、1期目在任中に策定した「R2030チャレンジ・デザイン」への取り組みとして、DXの推進・グローバル化・学外連携の強化の3つを挙げ、その基盤は多様な性と語る。特に映像学部(衣笠キャンパス)と情報理工学部(びわこ・くさつキャンパス)の大阪いばらきキャンパスへの移転を「R2030」実現に向けた起爆剤と位置付け、期待を寄せる。また昨今話題のAIについても触れ、新たなツールの活用に向けた前向きな姿勢を示した。

最後に在校生・新入生に向けて「出会いが奇跡だ。

現在と今後
Withコロナの留学

Withコロナの流れとともに各国への渡航が再開されるなか、本学の留学プログラムも従来の姿を取り戻しつつある。留学プログラムの現状と今後について、国際教育センターの村上陽一郎さんと花村大輔さん、文学部の金津日出美教授と西村葉子さんに話を聞いた。新型コロナウイルスの影響により渡航の中止やオンラインでの実施が相次いだ近年の留学。文学部キャンパスアジア・プログラムは中国・韓国を2年間で2周する留学プログラムだが、2021年度以降、中国への渡航が再開。短期プログラムは未だ中止のものが過半数を占める一方で、昨年度は交換留学などの中長期プログラムが一部を除いて渡航を実施した。村上さんは「中国のゼロコロナ政策終了など国際的な人の移動がかなり戻ってきていることを踏まえて、やはり本年度は全てのプログラムで渡航留学を確実に実施できるように全力を注いでいきたい」と今後を期待を寄せる。

またコロナ禍で新たな留学のかたちとして増加したオンライン留学。実際に参加した学生からは、授業外の経験が得られないことを惜しむ声があったというものの、昨年度の交換留学プログラムで中国・北京大学のオンライン授業を受けた増田佳純さん(国関4)は「オンライン留学でも授業の質としては現地渡航の留学とそれほど変わらないと感じ



中国のオンライン授業を受ける学生



韓国現地で授業を受ける学生

最後に村上さんと花村さんは学生に向けて「少しでも異文化に触れてみたいなどの気持ちがあれば、ぜひ具体的に行動してほしい」と呼びかけた。(下田)

春、新生活の時期である。このような施設を利用できることは大学生の特権であり、学生という立場でしかできない挑戦は多い。という学生も多いのではなかろうか。コロナ禍で制限された高校生活を過ごすことになったとしても、このような場があるということを知ることで、自に据えた過ごし方も否定されるものはないだろうか。人生で最も自由な時間ともいわれる大学生活に、新入生の皆さんは踏み出そうとしている。これから始まる生活には多くの経験の場があり、そこで得られるものは知識・教養としての学び、交友関係、自分の身のこなし方などさまざま。こうして経験できるものを選択していく上で、自分が興味のあることをしては自分にとって満足のいく大学生活にならない。大学生が自分にとって有益なものになったか判断できるのは自分だけなのだ。

側面でも課題を残したと語る。2期目就任にあたっては、世界課題の解決に貢献する「次世代研究大学・次世代探究学園」を目指すとする。これには、1期目と表裏をなすもの、世界のレベルの研究で世界の課題解決に貢献していく大学・学園を目指すという思いが一貫しているという。なかでも、1期目在任中に策定した「R2030チャレンジ・デザイン」への取り組みとして、DXの推進・グローバル化・学外連携の強化の3つを挙げ、その基盤は多様な性と語る。特に映像学部(衣笠キャンパス)と情報理工学部(びわこ・くさつキャンパス)の大阪いばらきキャンパスへの移転を「R2030」実現に向けた起爆剤と位置付け、期待を寄せる。また昨今話題のAIについても触れ、新たなツールの活用に向けた前向きな姿勢を示した。

最後に在校生・新入生に向けて「出会いが奇跡だ。

学友会常任四役選出 未来への礎を築く

本学学友会の常任委員会役員を決める「2023年度常任委員会役員選挙」が昨年11月27日と12月19日にわたって行われた。学友会は本学の全学部生が加盟する日本最大の学生自治組織「想いをカタチに」を理念に、学生生活の発展・向上、それらを通じた学園や社会の発展に寄与するべく活動している。常任委員会は学友会の最高議決機関である中央委員会を統括し、学友会を代表して会務を担う。

投票により常任委員長に吉田龍太(文生)が選出された。常任委員長は学友会の代表として、学生生活の発展・向上、それらを通じた学園や社会の発展に寄与するべく活動している。常任委員会は学友会の最高議決機関である中央委員会を統括し、学友会を代表して会務を担う。

投票により常任委員長に吉田龍太(文生)が選出された。常任委員長は学友会の代表として、学生生活の発展・向上、それらを通じた学園や社会の発展に寄与するべく活動している。常任委員会は学友会の最高議決機関である中央委員会を統括し、学友会を代表して会務を担う。



吉田龍太
常任委員長



鈴木棟登
常任副委員長



田中颯
常任副委員長



凌亜里
事務局長



桑原大空
学園振興委員長

求実現運動を主に担う。桑原さんは「学園振興委員長として、学生の皆さんの声を基に要求実現運動の高度化を目指す。現在と将来の2つの軸から大学と積極的な議論を行い、学友会を導いていきたい」とした。

新入生に対し吉田さんは「学友会活動は責任が伴うこともある。しかしそういった活動や、他学部の人たちの出会いは自己の成長につながる。ぜひ学友会活動にも参画してほしい」とメッセージを送った。(稲垣)

学びステーション

学びステーションは学内の一次対応窓口として各キャンパスに開設されている。主に受講登録・定期試験・成績確認等の学生生活全般に関する一次相談窓口として活用することができ、相談内容に応じて、適切な学内部署に取り次がれる。また学生証・各種証明書の発行も可能である。

同施設の利用については「W」の窓口として「新入生スタートアップサイト」の活用を推進しており、同サイトでは本学で学生生活を始めるにあたって必要な情報が入る。その他にも「新しい」と学生自身による情報の収集も呼びかけている。新入生が情報を取得するための窓口として「新入生スタートアップサイト」の活用を推進しており、同サイトでは本学で学生生活を始めるにあたって必要な情報が入る。



学びステーションの窓口の様子

学生サポートルーム

学生サポートルームは本学の全学生を対象に、カウンセリングや心理的サポートを行う機関である。衣笠キャンパスの研心館2階、びわこ・くさつキャンパス(BKC)のセントラルアーケード1階、大阪いばらきキャンパスのA棟1階等に相談室や待合室が設置されている。相談の申し込みはホームページにある相談申し込みフォームから、他者と会話を交わさず行うことが可能である。

また読書会やアニメカフェなど、学生同士の親交を深めるための企画が定期的に開催されている。BKCで学生支援コーディネーターを務める岩井栄一郎さんは「新しい生活や人間関係に適応するには心に大きな負荷がかかる。悩んでいることがあったら二人で抱え込まず学生サポートルームを含めていろいろな所に相談して欲しい」と新入生へメッセージを送った。



OIC 施設内の待合室

キャリアセンター

キャリアセンターは、学生一人ひとりが卒業後に希望する進路を実現できるように、キャリアの構築を支援する施設。主要3キャンパスのほか、大阪梅田キャンパスや東京キャンパスでも支援を受けられる。

就職活動や進路に関するセミナー、低回生向けのワークショップのほか、一人ひとりの進路希望や状況に合わせた個別相談も対面・オンライン・電話で実施されている。衣笠キャリアセンターの百々遼さんは、学生に向けて「立命館大学には課外自主活動や留学プログラム



個別相談はオンライン・電話・対面で対応可能

SSP

Student Success Program (SSP) は、正課内外の学生生活全体を通じて学生が学びの主体として自立し、最大限の成長を遂げるためのプログラム。レポートの書き方や試験対策に関する集団セミナー、SSPピア・サポーターによる相談アワー、SSPコーディネーターによる個別相談などに参加できる。

SSPピア・サポーターとして活動していた卒業生の大橋西音さんは、SSPの魅力として「悩みの解決だけでなく、個人に合わせた成長への支援もしてもら



ピアサポーターの活動風景

新入生 サポートサービス特集

「履修に関することを知りたい」、「パソコンの操作で聞きたいことがある」、「不安な気持ちを誰かに相談したい」。このような疑問や悩みが出た際、どこに相談すれば良いのかわからなかった経験がある学生は多いのではないだろうか。大学生活に慣れていない新入生ならなおさらだ。今回は学生が何かしたいとき、何か知りたいとき、悩みや困りごとがあるときに相談対応や支援をしてくれる学内の施設・組織を8箇所取材した。読者の役に立てば幸いだ。

保健センター

保健センターは学生・教職員の豊かな学園生活を健康面から支援する施設。定期健康診断をはじめ、健康相談、発熱外来、留学支援や健康診断証明書の発行など多様な支援を行う。

新入生に向けて、保健センターからサポートを行っている。

保健センターでは健康面からサポートを行っている。



保健センターの受付

ハラスメント 防止委員会

ハラスメント防止委員会は学内で起こったハラスメント行為への対処や、それを防止するための啓発活動を行う組織。同委員会は学園の教職員から構成されており、専門委員として弁護士が参加している。各キャンパスには相談員が配置されている。

同委員会で事務局長を務める人見充さんは「ハラスメントを受けたと感じた際は、信頼できる人や相談員に相談してほしい。自分自身を責めたり我慢したりしないでほしい」と語った。

障害学生支援室

障害学生支援室は障害のある学生への修学支援に関する窓口として設置されている。専門の支援コーディネーターが常駐し、学生の多様な支援ニーズを聞き取り、障害学生が大学で修学しやすい環境調整を行う。

障害学生支援コーディネーターの酒井春奈さんは「支援が必要な障害学生の声が出なくて、支援がスタートする。どんな支援を行っているのかなど随時説明もしている。ぜひ新入生にも障害学生へのサポートスタッフ活動に参加してほしい」とコメント。サポートスタッフは車いす学生の移動支援や、聴覚障害学生の文字通訳の支援、視覚障害学生の資料のテキスト化など、学生がサポートする活動である。

酒井さんは「サポート活動に参加することで、どうすればより学びやすい大学環境になるのか、支援の意義や新たな気づきを得るきっかけになれば」と活動参加の意義を語った。



専門の支援コーディネーターによって支援が行われている

RAINBOW サービスデスク

RAINBOW サービスデスクとは、教育・研究活動を支える学内の各種ITサービスの総称である。学内でのネットワーク接続やMicrosoft等ソフトウェアのインストール、パソコンのトラブルシューティングなど、学生が学内生活で必要とするITに関する相談対応を行っている。サービスデスクを利用する際は、ホームページの問い合わせフォームの窓口相談も実施している。問い合わせフォームについては質問した日の翌開室日中に対応し、緊急を要する際は電話による相談を推奨している。状況によってはZoomでの対応を提案し、円滑な対応を心がけているという。

春学期に多く見られる相談内容には印刷の方法、無線LANの使用方法の2つが挙げられるそう。このほかにも相談件数の多い事例については、RITSUMEIKAN ITサポートサイトから確認することができる。



RAINBOW サービスデスクの様子

日本全国47,000団体を検索できるWEBページ

「サークルサーチ」

今春OPEN!!

YOU CAN PASS YOUTH 株式会社ユーキャンパスユース

立命館大学スポーツ展望 2023

RITSUMEIKAN UNIVERSITY SPORTS 2023

SPORTS

スポーツ展望

「立命館憲章」に基づきスポーツを学園づくりのための重要な要素とし、課外自主活動の振興・発展に努める本学。包括的連携交流協定をアシックスジャパン株式会社と締結し、アスリートの育成に力を入れている。そのため本学は各競技のトップ選手が集うスポーツの名門校としても知られ、多くの団体が毎年優秀な成績を収めている。それらの団体は日本だけでなく世界を舞台に活躍する選手やプロの選手を輩出している。ここでは本学の団体の中から全国に名を轟かせている競技の今年の展望を紹介する。(井上)

WOMEN'S TRACK & FIELD

女子陸上競技部

女子陸上競技部は、大学の村松姉妹をはじめ、実力のある選手達の走りに期待の都駅伝、富士山女子駅伝ともに最多優勝を誇る。近年は表彰台から遠のいていたが昨年の都駅伝では準優勝に輝き、女王奪還の兆しを見せた。しかしその2カ月後に行われた富士山女子駅伝では、序盤の出遅れの影響で5位に終わり、涙をのんだ。

近年の大学女子駅伝界には5年連続で二大駅伝を制覇する名城大が絶対女王に位置している。追う立場の本学はエースの飛田凜香が昨年度卒業し、苦戦を強いられることが予想される。

AMERICAN FOOTBALL

アメフト部

アメリカンフットボール部、通称パンサーズは学生日本一を決める「甲子園ボウル」で8度の優勝を誇り、学生トップレベルの実力を誇る。しかし近年はパンサーズ最大のライバルである関西学院大(経済)との対戦が苦戦続きで、昨年は6対10で敗れ、またしても優勝を逃した。



昨年の都の都駅伝では3年ぶりに表彰台に登った

硬式野球部は1923年創部、今年で創部100周年を迎える。過去には元ヤクルトスワローズの古田敦也さん等、多くのプロ野球選手を輩出している。昨年から大きく低迷した。

しかし本年度は、昨年12月に行われた待ジャパン大学代表候補合宿に参加した谷脇弘起(産社4)やリーグ戦で150キロ超えを連発した藤本竜輝(産社4)らを中心とし、投手陣の層は厚い。また有馬伽久(産社1)は昨年夏の甲子園で愛工大名電高校の41年ぶり

BASEBALL 硬式野球部



今年も桃谷のバッティングに期待がかかる

のリーグ戦、春季は最下位、秋季は4位に終わり、優勝争いをしていた一昨年から大きく低迷した。しかし本年度は、昨年12月に行われた待ジャパン大学代表候補合宿に参加した谷脇弘起(産社4)やリーグ戦で150キロ超えを連発した藤本竜輝(産社4)らを中心とし、投手陣の層は厚い。また有馬伽久(産社1)は昨年夏の甲子園で愛工大名電高校の41年ぶり

HOCKEY

男女ホッケー部

ホッケー部は、大学ホッケーの中でも随一の結果を残している。昨年、女子は春季・秋季リーグともに優勝を果たした。しかし大学日本一を決める夏の大学王座決定戦では、3連覇を逃した。

圧倒的な力を誇る。「学生最高峰の試合」と呼ばれる関西戦で昨年本学は6対10で敗れ、またしても優勝を逃した。



昨年関西大に敗れリーグ優勝を逃した



関西大との対戦は「KG戦」と称され毎年多くの観客が集う注目の一戦

の8強入りに貢献した左腕であり注目が集まる。打撃は履正社高校時代に夏の甲子園で全国制覇を成し遂げた桃谷惟吹(産社4)が主軸としてチームを先導する。今季に向けて谷脇は「昨年は1点の重みを知った。今季は味方がミスしても取り返せる、勝てる投手を目指す」と意気込んだ。

キャプテン就任 京都サンガ川崎颯太

今季、サッカーの明治クラブ最年少となる21歳でキャプテンに就任した川崎颯太(産社1)は、昨年度のリーグ優勝に貢献した。今季は「一人では5ゴールは難しい」と意気込み、チームを引っ張ることを目指している。

川崎颯太 (中村)

全関西総合杯男子部門 自動車部 優勝

自動車部が全関西学生自動車連盟年間総合杯の男子団体部門・男子個人部門で優勝し、連覇を遂げた。本大会には、設定されたコースを2回に分けて走行するジムカーナ、ダート路面でのタイムを競うダートトライアル、そして狭路での走行を審査されるフィギュアの3種目がある。

昨年度主将として大会に出場した卒業生の堂坂佳弘さんは、この結果について「2試合で表彰台に立つことができたのは、全ての練習に真剣に取り組んだ結果だと思える。その延長線上に今大会での優勝がある」と振り返る。本年度の自動車部について「全日本大会でも活躍してくれると思う」と期待を寄せた。(鈴木麗、大池)

全関西総合杯男子部門 自動車部 優勝

昨年の全日本選手権では準優勝となった

ダートトライアルに挑戦する競技車

内定獲得の決め手は“さわやかな笑顔”!

歯の変色や歯茎の黒ずみが気になる方

前歯を治療するだけでも、印象はグッと変わります!

海外では歯並びが悪いことが、マイナスイメージに国際的に活躍したい人には、矯正治療がおすすめ。欧米では歯並びを整えることは、大切なマナーでもあり、面接時のチェックポイントにする企業も増えているとか…。グローバル化が進む中、きれいな歯並びは一生の財産になります。歯の裏側に付ける目立たない矯正装置もありますので、お気軽にご相談ください。

ホームホワイトニングでポイントUP!

ホームホワイトニングの特徴

- お気軽に相談ください!
- 自宅で手軽に行える
- 歯列全体に使える
- 通院回数が少ない

歯列矯正

カウンセリング無料!即日見積もり

大阪大学歯科部医師チームによる最先端の治療

歯の黄ばみ 歯茎の黒ずみ すきっ歯 ガチャ歯

白梅町 アリス歯科医院

まずは気軽にご相談ください

075-462-8211

無料カウンセリング 受付中

http://www.alicedental.jp/

白梅町 アリス歯科医院

アリスデンタルクリニック グループ
京都(四条大宮・白梅町) 東京・名古屋

まずは気軽にご相談ください

075-462-8211

無料カウンセリング 受付中

http://www.alicedental.jp/